

六篠会報

No.20

発行／神戸市灘区六甲台町1 神戸大学農学部内 ^{りく}六 ^{そう}篠 ^{かい}会 (神戸大学農学部同窓会)
連絡用FAX : 078-881-2752 E-mail : rikusou@ans.kobe-u.ac.jp



神戸大学百年記念館（神大会館）から望む神戸市内

CONTENTS

「会長挨拶」 北浦 義久	2	六篠会からのお知らせ 中村 直彦	7
「学部長挨拶」 中村 千春	2	学友会だより 王子 善清	7
同窓生は今 ①湯浅 浩史	3	研究室紹介 ①応用動物学科 動物遺伝育種学研究室 向井 文雄	8
②小村 国則	3	②食料生産環境工学科 バイオシステム 工学講座プロセス工学教育研究分野 豊田 淨彦	8
③包清 博之	4	③生物機能化学科 食品・栄養化学教室 金沢 和樹	8
最新研究情報		④生物環境制御学科 生物制御学講座 昆虫科学研究分野 前藤 薫	9
バレイショの母を探して苦節(?) 20年 保坂 和良	4	⑤植物資源学科 森林資源学 金澤 洋一	9
代議員総会報告 中村 直彦	5	庶務報告	10
支部会だより ①KOBEL六篠会 上田 桂子	5	16年度決算	10
②県六篠会 新岡 史朗	5	17年度予算	10
③関東支部 多田 泊二	6	同窓会事務局の案内	10
④東海支部 上田 洋	6	編集後記	10
⑤延喜会 久保 一兵	6		

新たな気持ちで！

六條会会長 北浦 義久



六條会員の皆さん、お元気で
すか。各地域、各分野にお
いて、ご活躍のことと心から
お喜び申し上げます。

皆様方に支えられて、この
4年間六條会会長として活動
させていただきました。また、
今年の5月の総会において、
会長として再任されましたが、
これからの2年間を精一杯や
らせていただきます。どうか会
員にしています。どうか会員
の皆様方の温かいご支援とご
協力を賜りますようお願いし
ます。

六條会では、全学的な学友
会やKUCなどと言った組織
の活動にも積極的に参加し、
他学部との交流を図っており
ます。また、KOBEB六條会、
県六條会、関東支部（東京木
曜会、東海支部など、それぞ
れの職域や地域での活動を活
発に行っております。それぞ
れの総会や懇親会を開き、同
窓生の交流を深めると共に親
睦を図っております。

まだ支部が結成されていない
地域や職域でも是非支部を結
成していただければと願って
います。具体的な動きがあり
ましたら本部へ一報下さい。
積極的に対応させていただきます
ます。今後とも同窓生の新し
い和を作り上げていきたいと
思っております。

農学部近況報告

農学部部長 中村 千春



パートで神戸大学ビールの販
売開始が告げられ、売り場の
風景が映し出されておりました。
用意した牛肉も早々に完
売されたと同いました。また、
神戸大丸では「神戸大学いも」
なるパッケージでジャガイモ
が売り出され、パッケージの
中にはあまり見かけない赤い
ジャガイモと説明文書が入っ
ており、品種が「ネオデリシ
ヤス」、これまでの育種経過と
食べ方が書かれておりました。

このように家庭の食卓で高度
な大学の技術を味わえること
に大きく感動を覚えました。
大学で研究された成果が国民
に還元されることは非常に意
義深いことと思います。これ
からも多くの人に理解され愛
される大学として、着実な歩
みを続けてほしいものと念願
しています。

また、平成18年から19年かけ
て学舎の改修工事が民間活力
を活用したPFI方式で行わ
れると聞いております。農学
部の老朽化した学舎を最新の
研究・教育施設へと生まれか
わることを期待しています。

このように、今、母校神戸
大学は大きく変わろうとして
います。われわれ同窓生も神
戸大学の将来への飛躍に大き
な夢を抱き、大学の発展に微
力ながら支援を続けていきたく
いと念じております。

最後にになりましたが、会員
の皆さんのご健勝とご多幸と
限りなくご発展をお祈り申し
上げ、ご挨拶とします。

今年も六條会会報発行の季
節がやって参りました。晩秋
の空のもと、六條会会員の皆
様にはますますご清祥のこと
とお慶び申し上げます。

さて、本年は六條会にとつ
て誠に喜ばしいことがござい
ました。北浦六條会会長の兵
庫県議会副議長就任の快事で
ございます。北浦会長には、
兵庫県政におけるますます重
要な職務を担われることにな
り、激務の日々が続くことと
存じます。そうした中で、六
條会会員の求心力の要である
会長としてご尽力を頂戴する
ことになりましたが、農学部と
して何卒よろしくお願ひ申し
上げますとともに、ご自愛の
ほど念じております。

私は、本年2月16日、眞山
滋志前農学部部長が副学長・理
事（研究・産学連携および地
域連携担当）に就任された後
を受けて農学部部長を拝命致し
ました。重責に身の引き締ま
る思いでおります。就任以来
はや9ヶ月がすぎましたが、
この場をお借りして、会員の
皆様にご挨拶方々、農学部の
近況をお知らせ致します。

PFI (Private Finance
Initiative) 方式による農学部学
舎の改修事業は、本年11月11
日開札、12月27日落札の予定
です。学舎改修委員会の尽力
のもと移転計画も順調に進行
し、18年8月のE棟（研究棟）
改修を皮切りに、約1年半に
及ぶ改修工事が始まります。

学生諸君とともに教職員にと
つても忍ばなければならぬ
不便な期間が続くことになり
ます。学部運営、わけても学
生諸君の教育研究に予想され
る支障を最小限に抑えるよう
教職員が一丸となって協力し、
19年12月末の改修工事完成を
迎えたいと思っております。

次は大学院・学部の改組に
ついてです。現在、理・工・
農・海事で構成される大学院
自然科学研究科の第4次改組
に向けた作業が、急ピッチで
進行中です。大学院教育の実
質化が改組のポイントですが、
これにより教員は大学院専任
となり、学科目制へ移行する
学部は兼担となります。今次
の改組の意義は、自然科学系
4部局が、高度職業人や教育
者・研究者の育成に力点を置
いた大学院体制へ再編するこ
とです。しかしながら、大学
院教育の重点化は学部教育の
充実を伴ってはじめて実現可
能です。農学は、生物学、化
学、工学、社会科学を包含し、
食、環境、バイオを目標とし
た総合科学であり、幅広い教
養、視野と技術を身につけた
人材を育成できる強みを持つ
としております。学部・大学院
教育を通じて、総合力・人間
力の上に農学の専門性・独自
性を今まで以上に発揮し社会
の各分野で活躍できる人材を
育成する環境を整える必要が
あります。従来にも増して農
学教育研究機関としての使命
達成に向けた努力が求められ
ています。改組の具体的な内

容については、現時点で詳細
に説明することができません
が、博士・修士・学士を一貫
した農学教育研究体制ができ
ることになるでしょう。自然
系他部局との協力関係を強め
ながら、「農学部ブランド力」
の根幹である人材育成に向け
たよりよい教育研究環境の整
備に務めて参る所存です。

今年も国際学術交流の分野
でも前進が見られました。農
学部は、従来から国際的視野
をもつ人材の育成に力点を置
き、策定された中期目標・計
画を達成するため、教育環境
の整備に努めて参りました。

本年度は、幸いにも、文部科
学省の「戦略的国際連携教育
支援プログラム」に、農学部
が申請した「アジア農業戦略
に資する国際連携教育プログ
ラム」が採択されました。全
国の国公私立大学から多くの
応募があった中、私達農学部
のプログラムが採択されまし
たことを嬉しく誇らしく思い、
六條会会員の皆様へ報告申し
上げます。農学部は海外の多
くの大学と学術交流協定を結
んでいますが、とくに北東ア
ジア4カ国の中国農業大学、
ソウル大学、ベトナム・ノン
ラム大学、フィリピン大学ロ
スパニオス校とは相互交流を
図って参りました。10月には、
ノンラム大学との協力で新た
に開講した熱帯農学海外実習
コースに学部および修士課程
の学生25名を送り、熱帯動植
物と農業について現地です

的に学ぶ機会を学生諸君に提
供しました。教員2名と教務
係職員1名が学生指導で付き
添い、現地教員と合同で講義
および実習を実施した本コー
スは、好評のうちに無事終了
致しました。ホームページで、
報告をぜひご覧になって下さ
い。なお、10月に開催された
EU Weekでは、「安心安全な社
会と科学技術」と題したシン
ポジウムを企画し、食の安全
安心を焦点に話題を提供致し
ました。12月には、新たな学
術交流協定を締結するためベ
トナム・ハノイ農科大学を訪
問致します。今後も国際学術
交流の促進に向けてより一層
知恵を絞って参ることを皆様
にお約束申し上げます。

続いて、皆様すでによくご
存知のことと思いますが、農
学部における研究教育の成果
として神戸大学発のブランド
商品が生まれた事実を報告申
上げます。眞山前学部長と
食資源教育研究センターが中
心となって策定した「神戸ピ
ーフ」の恒常的な生産計画が
実行に移され、本年5月には、
「神戸大学ビール」という名の
ブランド品として東京銀座三
越で販売が開始
されました。神
戸大丸でのジャ
ガイモ、ナシの
販売も好評のう
ちに市民に受け
入れられていま
す。さらに、兵
庫県立農林水産
技術総合センタ
ーで育種された
酒米品種「杜氏
の夢」を食資源
教育研究センタ
ーが栽培し、こ
れを加西市の酒

造会社「福久錦」が日本酒に
醸造する新企画が進行中で、
来年2月には、神戸大学ブラ
ンド品のニューフェイスとし
て登場する予定です。地域の
産官学が協力し、それぞれの
立場と貢献を尊重しながら、
連携の成果としての商品を世
に問う、こうした試みは重要
であり、農学部として今後も
推進して参ります。

最後になりましたが、同窓
会をはじめ在学生の父兄会、
産官民間機関並びに市民の皆様
からのご支援により可能とな
る「農学部ファミリー力」の
形成をより一層進めて参りた
いと思っております。農学部および
農学研究院における教育研究
活動をはじめ、「就職支援室」
を活用した学生諸君の就職支
援などに同窓会ネットワーク
のご支援が是非とも必要です。
農学部教職員一同は、農学部
の発展を期して微力ながらも
努力して参りますので、六條
会会員各位の変わらぬご支援
を賜りますようお願い申し上
げます。



同窓生は今

「植物文化と環境向上」 東京農業大学環境緑地学科、バイオセラピー学科 教授 湯浅 浩史(兵A11回)



朝日新聞のコラム「花おり」は、10月で1、400回を超えた。世界に新聞はあまたあり、私も海外に行く度に気をつけているが、一面に花や植物の記事が載ることは、まずない。それが全国紙で一面に毎日の連載がゆるされるのは、日本人に植物への親しみや理解が底流しているからであろう。それは日本の文化と言えよう。

生け花、盆栽、俳句の季語など洗練された文化だけではない、花見のように男性が昼間から集団で花を見て、飲み、食べ、歌う花の習俗は、世界のどの民族にもない。また、生け垣や行事植物などふだんは余り気に止めない衣食住以外の植物利用も、日本独自の伝統が少なくない。

それが近年、坂道をころげ落ちるように、衰退しつつある。若者の植物離れである。これは農の分野にも通じる。野菜の名を知らない。エンドウ豆を食べたことがないという。グリーンピースとエンドウが同種であると知らないのだから、自然は征服する時代

であった。地球の最も古い、かつ大規模な自然破壊は農業だという指摘もある。しかし現代は農業がさらなる環境の変動を抑制しているとも言える。農業も含めて、人と環境のかかわりは新しい時代を迎えつつある。

最初に訪問した1973年の人口は600万人、それが今や3倍以上の1,900万人。しかも我々と同じ米食中心の煮炊きは99%以上がマキと炭。多くは自然林が伐られ、供給される。燃料問題こそ、森林をゲリリ的に破壊する元凶と言えよう。

加えて雨の降り方の偏在。日本ではまだ、ほとんど問題視されていないが、気温の上昇よりも、こちらの方が乾燥地帯ではより深刻である。もともと雨の少ない地域に雨が降らない、少雨の年が繰り返される。年間雨量500ミリを下回れば、もはや一定収量の農業は難しい。少雨の後は反動的な大雨の年になり、それはそれで元来木の少ない地は洪水をもたらす。その少ない木は燃料用に伐採され、ますます荒地が広がる。

この悪循環を断ち切るためには、乾燥地の環境に即した生物生産と植生が欠かせない。日本の研究者は少ない。即存の農作物だけでなく、乾燥適応能力を持つ植物の研究が必要である。そんな環境向上植物の一つを紹介しよう。マダガスカルのアロウディア・プロケラは一見柱サポテンに似た外観の多肉植物だが、中心は木化し、材木が得られる優れたものである。しかも、太い枝を地面にさすだけで活着する。

そのポランテア活動による10余年の復林は、10万本を超えた。デスクとフィールド、その両面で、これからも進みたい。

これはほんの一例である。地域住民は環境と結びついて暮らしてきた。もちろん日本だけでなく、世界各地の民族の伝統的な暮らしにあてはま

る。農業をはじめ地域の生業が環境の変動を抑制している面は少なくない。人と環境、そこにすむ生物のかかわりは、農作物や家畜を含め生物が命の通った生き物として、地域やそれぞれの民族の間に長い歴史を持つ。現代に改めてその伝統を見直そうと、二年前に「生き物文化誌学会」が設立された。この10月までに日本各地で例会がすでに14回開かれ、活発な討論、問題提起がされている。私も副会長の任を負う。

長崎県総合農林試験場 愛野馬鈴薯支場長 小村 国則(兵A17回)



六篠会報が届くたびに神戸の変遷を懐かしく思いながら読ませていただいていた。まさか執筆依頼が来るとは思ってもいませんでした。長崎県原島南東部の農家に生まれ、タバコや切り干し甘藷の手伝いをしていました。次第に甘藷の需要が減って馬鈴薯の栽培が増えつつありました。高校卒業前の受験雑誌に兵庫農科大学の国立移管と馬鈴薯の研究が掲載されており、それがきっかけで受験しました。

昭和40年4月から丹波篠山で2年半、神戸で1年半を過ごし、篠山と六甲の2カ所で過ごせたのが今でも忘れられません。とくに、篠山での生活は友達や先輩がいつも顔を合わせていたため、いまでも先輩から声をかけられることがあります。神戸では作物育種学研究室に入り、馬鈴薯は川上幸治郎、松林元一、高山昭康の各先生方に育種や栽培生理の指導を受け、永田忠男先生からは大豆の育種について習いました。今でも研究室からの神戸の夜景を思い出します。当時の先生方はすでに

にお亡くなりになり寂しい気持ちです。昭和44年4月、長崎県の西海国立公園の近くの西彼農業改良普及所に配属となり、ミカンの剪定指導、土壌分析等

を担当しました。2年後には対馬農林試験場でカドミウム公害による水質や土壌汚染対策担当となり対策に追われました。49年4月に愛野馬鈴薯支場に赴任し、5月下旬には品種タチバナの白い花が咲き誇り、一面真っ白な光景は今でも忘れることができません。当時は雲仙行きの観光バスがジャガイモの花を紹介しており、観光にも貢献してまいりました。

萌芽揃い、植え付け後の出芽揃いが大変重要で、このため種いもの温蔵・浴光処理を行います。休眠期間の短縮は栽培期間中の好適栽培条件と収穫後の貯蔵温度との関係が大きいことがわかり、秋作産種いものを温蔵・浴光した春作マルチ栽培は出芽揃いが良く、5月上中旬収穫で多収となりました。開花時期の違いから交配出来ない組み合わせは、夜間電照栽培による長日条件下で生育させ、着生したいものを定期的に取り除いて開花期を延長して行いました。茎長が5メートル以上になる品種もあり、一株から合計して300個以上の小さいものが取れることもありました。

19年間いくつかの品種育成に従事してきましたが、平成3年度に南米チリのチロエ島の島々へ遺伝資源探索に行く機会があり、赤や紫の肉色をしたいろいろな形のいものを見ることが出来ました。畑の隅には野生種もあって興味深く探索しました。農家は危険分散のため5種類程の品種を混ぜて栽培し、食用として大事に納屋に貯蔵されています。娘さんが嫁ぐ時に父親がいもを持たせてやるとの話も聞き、いもの大切さを知りました。調査の途中で霜の被害にあつた畑に出会い、被害を受けていないいもを戴きました。貧しいため農薬や肥料を用いない栽培でしたが、本場に多くの事を知ることが出来ました。

その後、総合農林試験場に移動し、国の補助事業で栽培上問題となっているジャガイモシストセンチュウ、ジャガイモMYおよびXウイルスに連鎖するDNAマーカーの開発を、馬鈴薯のDNAマーカーの専門家である神戸大学農学部保坂和良教授に共同研究していただくことになり、多くの事を教えて戴きました。また、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性検定は検定用施設が整っている当時北海道農業研究センター病害研究におられた百田洋二室長(兵庫農大の同期生)にお願いしました。開発した抵抗性遺伝子に連鎖する各々のDNAマーカーを用いて複合抵抗性を有する品種育成に利用しています。

暖地での馬鈴薯栽培は病虫害の発生が多く、とくに土壌病害であるそうか病や青枯病が問題となっています。土壌中の菌密度の遺伝子診断による対策がとられるようになり、今後一層の研究が求められています。

本年4月に再び愛野馬鈴薯支場に帰り、環境にやさしい農業を目指し、ポリフィルムによる被覆資材や、クローリングによる被覆資材や、クローリングによる土壌消毒、水質汚染対策等多くの課題があります。病虫害複合抵抗性品種の育成や植物プラスチックの利用、輪作や間作を取り入れた栽培法、免疫抵抗性や拮抗菌等の研究に取り組んでいきたいと考えています。機会があれば是非長崎へもお出かけ下さい。お待ちしております。

湯浅先生の「花おり」愛蔵版第四集 好評発売中



九州大学大学院芸術工学研究院

教授 包清 博之 (神A12回)



地開発が盛んに行われ身近な緑が失われていった大阪市内で育ちました私は、漠然と、動植物を育むような環境づくりに憧れ、農学部園芸農学科に入学しました。

九州大学大学院芸術工学研究院環境計画部門で研究教育を担当し、ランドスケープ・アーキテクチャを専門分野としていきます。このランドスケープ・アーキテクチャの分野は、優れた景観を計画的に保全・創造していくこととする分野であり、現在では様々な分野の方々が係わるようになってきております。最近では、景観緑三法が制定されるといったことがあり、また一般書の中でも話題として取り上げられる機会が増えていまして、ご存じの方も多いためではないかと思えます。私は、都市や地域における緑地環境の保全・創造の視点からこの分野に係わっております。

私、昭和52年4月に神戸大学農学部園芸農学科に入学しました。その頃は一つの時代の転換期ではなかったかと思えます。高度経済成長の終焉と共に、環境権や環境影響評価といったキーワードがマスコミでも取り上げられるようになり、通称、緑の国勢調査も始まり、都市環境につきましても緑のマスタープランが議論されるようになりまし。今振り返りますと、破壊と創造が相克した時代から、人と自然との関係についても共生・共存が模索され始めた時代であったように思えます。そういった時代に、市街

研究室に受け入れてくださいました中村直彦先生は、卒業研究のみならず、進路にもご理解、ご指導、ご助言をくださいました。この場を借りて御礼申し上げます。そうこうして、大阪府立大学大学院の緑地計画工学研究室で自ら望んだはずのランドスケープ・アーキテクチャを学ぶことになりましたが、無力感に襲われてしまうことに多々直面しました。その多くは、教室で学ぶことができない知識ではなく、緑地環境や景観についての実践的で計画的な考え方や事象の整理の仕方であり、発想法であったように思います。そんな不安な日々を過ごしてまいりましたところ、鹿児島大学へ赴任する話しを久保員先生からいただき、修士論文では任地に関係した話題をテーマとして研究室の先生方から具体的な視点や計画目標を設定することの重要性を実践的に教えていただきました。

このような2つの大学での学生時代の体験が、今日も私を支え、戒めてくれていたように思います。今でも皆様に大変感謝いたしております。最初の赴任先は九州学院大学土木工学科でしたが、ここでは、地域社会と連携した環境づくりの取り組みの重要性を思い知らされるなど、多くの方々に公私を超えてお世話になりました。その後、大学院でお世話になった杉本正美先生が教授として赴任しておられました九州芸術工科大学環境設計学科の助手になりました。杉本正美先生には、緑地の設計や計画事業の組み立て方、他分野との協業の進め方、地域住民の視点に立った

環境の評価方法、学生の指導方法など、教え切れないほどの実践的なご指導を賜り、表現できない程に感謝いたしております。一時期、産学連携のための学内共同利用施設であります地域共同研究センターに所属しましたが、この時には、これまでの研究成果を踏まえ、「都市における生活関連空間の計画論的意義に関する研究」と題した博士論文をとりまとめることができ、日本造園学会賞もいただくことができました。杉本正美先生の定年退官後には、助教としての専門学科に再び所属することになり、平成15年の九州大学との統合後、平成16年に現職になりました。

こうして記憶を辿ってみますと、最初の機会を提供してくれた神戸大学とそこで多くの方々との出会いやご支援があったこと、また大阪府立大学での大変多くの人々との出会いに恵まれていたこと等々の有り難さを、時代の変化を含めて改めて実感いたします。決して模範となるような学生ではなかった私が、学生を指導する立場になって気づくことが多々ありますが、いかなる学生に対しても多くの機会の提供と支援に励むと共に、ランドスケープ・アーキテクチャの分野を通じて、多くの人々が時間を過ごす場に相応しい快適で魅力的な環境を保全・創造することに今後も寄与したいと願っております。

恩師である故松林元一先生を通じて、京都大学の常脇恒一郎先生の研究室でバレイシヨの葉緑体DNAを研究する機会が与えられたのは1983年4月だった(当時私は博士課程2年生)。葉緑体DNAは、母から子へ同じものが遺伝するため進化速度が遅く、種内ではほとんど差異が見られないという特徴を利用してバレイシヨの系統進化を明らかにするのが目的であった。まずは、普通のバレイシヨの葉から葉緑体DNAを抽出するため、附属農場の石田薫先生を訪ね、まだ萌芽したばかりのメークインを畑から掘り返してバケツにいれ京都まで持って帰った(後年、附属農場に職を得るとは思いもよらなかつた)。バレイシヨはアンデス高地に起原し、祖先となったものは、今でもアンデス高地で広く栽培され重要な食糧資源となっているアンデジエナ・バレイシヨ

ら亜種レベルで異なっている。松林先生の保存されていたアンデジエナ・バレイシヨとメークインの葉緑体DNAをそれぞれ制限酵素で切断してDNA断片の電気泳動パターンを比較すると、見事に期待は裏切られ、同一種であるにも関わらず全く異なるパターンを示した(その当時の実験ノートを開けてみると、1983年6月25日のことだった)。さらに分析を進めていくと、アンデスで栽培されているアンデジエナ・バレイシヨ以外の栽培バレイシヨやこれらに近縁な野生種の葉緑体DNAは基本的にアンデジエナ・バレイシヨと同じであり、普通バレイシヨだけが違っていることが分かった。この独特な葉緑体DNAは241塩基欠けているのが特徴で、T型葉緑体DNAと名付け、現在この名称で世界的に認知されている。さて、アンデジエナ・バレイシヨと普通バレイシヨの葉緑体DNAが違っていることは母親が違っていることである。アンデジエナ・バレイシヨはアンデスの他の栽培種や野生種とほぼ同じ葉緑体DNAを持つので、これらが母親であることが分かるが、では、普通バレイシヨの母親は誰だったのだろうか? 1995年の段階で、T型葉緑体DNAはどの

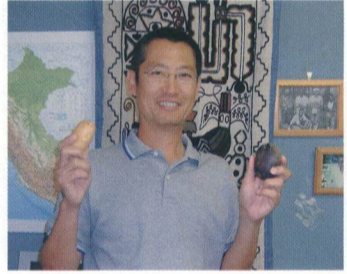
た。毎年、常にメークインよりも評価が高かったのは「ネオデリシヤス」という品種です。この品種は、神戸大学農学部がまだ県立大学であった頃の植物育種学研究室初代教授川上幸治郎先生が「アローズ」(近代品種ほとんどの親)にアンデスの栽培2倍種ソラム・フレハを交配して作った赤皮黄肉の3倍体品種(3倍体バレイシヨは世界でも極めて珍しい)です。1991年に八ヶ岳で開催された日本馬鈴薯研究会において、川上先生が自ら掘り起こされたイモを2・3個頂き、それを元に毎年維持増殖してきました。収量が低いためこれまで本格的に生産したことはなかったのですが、今年には新たにデザインした箱に詰められた、大丸神戸店が好評な売れ行きだったそうです。販売できないような小イモを保存しておいて翌年の種イモとして使うため、種イモ購入費がいらないことと、ちよつと珍しいくしかも美味しいのでより高値に販売できる点を考えると、収量が低いとは言え、大谷法人化後の生き残りかけた一つの道かなと思う今日この頃です。



最新研究情報

バレイシヨの母を探して苦節(?) 20年

神戸文学農学部附属食資源教育研究センター 保坂 和良 (神A11回)



野生種からも発見されず、したがって、バレイシヨが栽培化された後になって241塩基が欠けるという突然変異が起ったのだろうと推論した。しかし、その後、学生が別の目的で野生種の葉緑体DNAを分析していた時、偶然T型葉緑体DNAを発見した。これをきっかけに、大規模に野生種を調査した所、ついにアンデス高地の最南端とも言えるアルゼンチン北部に分布する野生種ソラム・タリジェンシイが普通バレイシヨと全く同じT型葉緑体DNAを持つことを突き止めた。普通バレイシヨの母親はこの野生種で、アンデジエナ・バレイシヨが父親であると結論づけ論文に発表したのは2004年のことである。バレイシヨの母親探しに20年もかかったとは何とも言いようがない。さて、附属農場に着任して16年目に入る。この間、母親探しばかりやっていたのではない。私たちの主務は農場実習を担当することであり、土地柄、メークインを主に栽培しているが、その他にもいろいろなバレイシヨを栽培して学生たちと試食をしてきまし

代議員総会報告

六篠会の総会が盛大裏に終わる

記念講演会も同時開催

代表理事 中村 直彦(神一回)

5月7日(土)、瀧川学術交流会館で、午後2時から総会、3時30分から記念講演会、そして4時40分から懇親会を開催した。

4年に一度の総会でもあり、本年3月に退官された王子善清名誉教授、辻莊一名教授にお願いし、初めての試みとして記念講演会を実施した。

また、六篠会の支部として活動されている関東支部(多田泊二会長・兵Z13)、東海支部(長谷川信弘代表・兵C16)、延喜会(新家龍前会長・兵C5)、兵庫県六篠会(吉倉博一 郎会長・兵C16)、K O B E六篠会(西尾司会長・兵Z16)の出席をいただくなど総勢約100名の六篠会議員が一同に会して大いに盛り上がった。

総会は、北浦会長の挨拶で始まった。つづいて、六篠会会員褒章規定に基づき新家龍前会長(兵C5)と久下平副会長(兵C1)に感謝状と記念品を贈呈した。新家先生は、六篠会発足当初から役員を務め会長を最後に4年前から顧問として指導していただいている。また、久下先輩も六篠会を発足当初から役員を務めていただいたことが、ご都合により役を退かれることになった。

議事は、議長に酒井修氏(兵A9)が選出され、第一号議案「平成16年度六篠会事業報告並びに収支決算の承認について」、第二号議案「平成17年度六篠会事業計画(案

の件(王子善清学友会担当理事・兵C12)、KUC活動の件(能宗康夫KUC担当理事・兵C2)について、現状報告を行い総会は閉会した。引き続き行った記念講演

並びに収支予算(案)の承認について、また、第三号議案には、「六篠会役員(理事・監事)及び代議員の選任について」が上程された。

第一号議案、第二号議案は、水野雅史庶務担当理事(神C15)、原山洋會計担当理事(神Z18)から報告並びに計画の説明を行い、外山眞理監事(神C8)から監査報告があり、いづれも原案どおり可決承認された。(詳細は後述のとおり)

また、第三号議案については、会員から「役員等の選任は難しいので、過去の経験を活かす、事務局案を提示してほしい」との意見が出されたため、事務局から①現在の役員、代議員の中で継続していただける方、②各所属から推薦をいただいた方、③六篠会活動に関心を持っていただいている方など総合的に考えて、理事16名、監事2名、代議員21名の案を提示したところ、事務局案が可決承認された。

なお、理事の互選により、会長には北浦義久氏(兵A6)に引き継ぎをお願いすることとなった。また、副会長には、能宗康夫氏(兵C2)、久保一兵氏(兵C2)、杉本金五氏(兵Z5)、内藤親彦氏(兵A13)、吉倉博一 郎氏(兵C16)、中村直彦氏(神Z1)の6名を選出された。(役員・代議員名簿は後述)

報告事項として、同窓会名簿発行の件(芦田均名簿担当理事・神C14)、学友会活動



そのあと、交流を深める懇親会に入った。お忙しい中を、眞山滋志神戸大学副学長、中村千春農学部長、吉田農学部事務長に駆けつけていただいた。眞山先生、中村先生からは、「農学部は、多くの先生方が各方面で活躍している。しかし、独立行政法人化によって運営はますます厳しくなってきた。今後、大学と同窓会が連携を密にしていく必要がある。大学は同窓生を応援してほしい。」といった挨拶があった。

西川欣一先生(兵A1)の乾杯の発声の後、各支部からの近況報告があるなど、各テールそれぞれに話題の花が咲いた。六甲台から眺める神戸の町は懐かしい。久々に、この六甲台に、同窓生の心の中に活気が戻ったかのようであった。

支部会

だより

K O B E六篠会

上田 桂子(神BC34回)

役職名	氏名	卒年・回生	所属(勤務先)
会長	中村 直彦	45年・神Z1回	財団法人 神戸みのりの公社
副会長	岡 淳治	45年・神T1回	都市計画総局 新長田再開発事務所
副会長	木股 昌行	45年・神Z1回	保健福祉局 東部衛生監視事務所
副会長	千代 栄司	46年・神A2回	財団法人 神戸市公園緑化協会
幹事	菅原 通直	48年・神C4回	環境局 環境保全指導課
〃	橋本 宏之	51年・神Z7回	保健福祉局 健康部 生活衛生課
〃	渋谷 一郎	52年・神C8回	環境局 地球環境課
〃	高谷 信之	52年・神A8回	産業振興局 農政計画課
〃	森川 功一	55年・神C11回	保健福祉局 北衛生監視事務所
〃	藤井 俊宏	58年・神C14回	保健福祉局 健康部 生活衛生課
〃	鈴木 壽也	59年・神P15回	産業振興局 農水産課
〃	松宮 道生	60年・神A16回	みなと総局 技術本部 工務第2課
〃	長濱 慶治	2年・神T21回	都市計画総局 計画部 工務課
〃	岡野 光世	2年・神A22回	産業振興局 農政計画課
〃	為国 司	5年・神C24回	環境局 事業系ごみ対策課
〃	角村 朝葉	9年・神A28回	西農業委員会
監事	中尾 博行	46年・神P2回	財団法人 神戸みのりの公社
〃	長谷川明彦	45年・神C1回	保健福祉局 環境保健研究所
〃	牛若 純一	48年・神C4回	保健福祉局 西衛生監視事務所

K O B E六篠会は、兵庫農科大学、兵庫県立農業短期大学及び神戸大学農学部を卒業し、神戸市に勤務する者を会員として、昭和59年に結成されました。現在は、会員123名(現職会員82名、OB会員36名、名誉会員5名)を数えています。

会員の採用区分は教職、農業、化学、衛生監視(農芸化学、畜産)から一般行政まで幅広く、また勤務先も小学校や中学校(教員)、環境局(産業廃棄物や環境保全に関わる仕事)、保健所や区役所保健部(食品・環境衛生に関わる仕事)、産業振興局

(農・水産・畜産業の農政振興に関わる仕事)、建設局(道路、下水道、公園などの土木関係、水道局、フルーツフラワーパークや六甲山牧場、海釣り公園)など多岐にわたっており、安全で安心なまち「こうべ」の実現に向けて、それぞれの職場・立場で会員一丸となり取り組んでいます。

平成16年度は神戸大学農学部卒業生5名が職員として採用され、新たにK O B E六篠会員となりましたが、私

は食品衛生監視員として、保健所で主に飲食店営業の営業許可に関する仕事を経験させていただいています。残念ながら平成17年度は農学部卒の新規採用職員はいませんでした。厳しい行財政運営が求められるなか、今後もこの状況が続くと予想されます。

食品衛生監視員になるために必要な単位は厚生労働省により定められているため、農芸化学系や畜産系以外の学科生でも、特定の授業を履修すれば衛生監視区分で受験することができるよう。今後一人でも多くの方に受験の機会を持っていただくためにも、学校関係者ならびに六篠会会員の皆様方につきましては、学部生への周知にご協力いただければと思います。

この伝統にちなんで、今年、久々に新会員歓迎会を農業試験場ゆかりの地である明石で5月に開催しました。歓迎会には主役である新会員とその職場の先輩会員及び役員が集まりました。スーツ姿で緊張した面持ちの新会員も自己紹介が済み、アルコールが入ると共に次第にリラックスし、中締めをはさみながらも歓迎会は延々4時間も続きました。それぞれの分野で活躍する緒先輩の経験談(失敗談?)もたつぷりと聞かされ、新会員もこれでパツチリ仕事ができると思います。

また、今年には県六篠会顧問である北浦義久六篠会会長が県議会副議長にご就任になりました。県六篠会としてはこの慶事をお祝いすべく、8月20日に明石グリーンホテルで祝賀会を開催しました。当日はご来賓として中村学部長を

県六篠会近況報告

新岡 史朗(神P11回)



県六篠会では本年度、新たに4名の新会員を迎えました。現在の県六篠会は昭和56年にスタートしていますが、その歴史は兵庫農科大学一期生の田中大先輩が後輩を農業試験場に迎えての歓迎会がその始まりであったと伝えられています。

お迎えし、多くのOB会員にも参加いただき、和やかな雰囲気の中で行われました。ますますお忙しい、激務の日々が続くこととなる北浦会長を激励する目的であったわけですが、参加した我々が北浦会長からいつものように元気をいただいたような次第でした。

も開催されており、県六篠会
会員でもある研究者（吉田晋
弥 神P13回）が、産学官の
連携事例として講義したこと
などもご紹介いただきました。

を得て決定されるなど、楽し
い時間がアツと言う間にすぎ
終了時間となりました。
なお、新たな会長、副会長
は次のとおりです。

総会に引き続き行われた
懇親会では、新会員歓迎会は
今後とも継続していくこと、
神戸大学ブランド日本酒を試
飲する会を行うこと等々新た
な提案が、出席者全員の合意

会 長 常友 永市(兵17T)
副会長 入江 和己(兵17P)
塩飽 是雄(神1A)
上林 良之(神1Z)
高原 作夫(神2A)

2005年度 六篠会関東支部の 活動状況について

支部長 多田 泊一(兵Z13回)

紅葉の美しい季節となりま
した。会員の皆様方には恙無
くお過ごしのことと推察致し
ます。

申上げます。支部役員は次
のとおりですが、全員が留任
いただくことになりました。

関東支部は去る10月7日
(金)に東京丸ノ内「神戸大
学凌霄クラブ」で第8回支部
総会を開催し、約30名の会員
並びに本部からは中村直彦代
表理事に出席いただき、同理
事から提供の神戸ワインを舌
鼓打ちながら和やかな雰囲気
の中で懇親を深めました。ま
た総会の以外の活動として全
学部で構成されます神戸大学
学友会主催の木曜会等イベン
トの後援を行っています。

副支部長 岸谷 靖雄(兵
10)、山本 隆司(兵10)、
長岡 俊明(兵10)、本田 勉
(兵12)、上山 維介(神3)
兼神戸大学学友会役員、
東野 純明(神13) 兼神戸
大学学友会役員、早瀬 基
(神19)、幹事 水田 勲
(兵12)、田中 易(神12)、
川口 真二(神18)、監事
河波 朗(神14)、荒井 良昌
(神15)

支部役員の変更では、本支
部会の設立から今日まで会の
運営にご尽力いただきました
前支部長和泉孔庸氏(兵8)
の勇退に伴い、私が支部長に
就任致しました。何卒宜しく
お願い申し上げます。和泉氏
には今後も役員として引き続
きご指導を受ける所存でいま
す。紙面をお借りして、報告

してゆく所存です。
今回の総会では支部役員
の本田勉氏(日本エコテック
(株)代表取締役)に「身近
な環境汚染問題と食の安全・
安心について」問題提起の講
演をいただきました。環境汚
染の問題はわが国では古くは
足尾銅山鉱毒事件(田中正造
提議)をはじめとして近年で
はダイオキシン・アスベス
ト、世界的には環境ホルモン
などが大きな社会問題とな
り、新聞紙上を賑わしました。
現在では測定機器の高度化に
伴い、ごく微量の新規物質・
既知物質の測定が可能とな
り、また動・植物の体内動態
が解明するに及んで過大に報
道されている傾向がありま
す。我々はこれらの危険性を
紙上で得るしか手段がありま
せんが、関係者の人達から実
態を聞くことと報道と実態は大
きな隔たりの有ることが分か
ります。今回の本田氏の講演
では農業に関しては農林水
産・厚生両省の行政が行き届
き、農薬取締法内の適正な使
用においては、なんら問題が
ないことを知りました。

講演をいただきました。牛肉
の偽装表示問題はBSE問題
に端を発し大きくその実態が
報道がされました。従来の表
示は生産者が牛の血統書を添
付し、その証明書を基に卸業
者・小売業者が価格を決定し
ていた為、消費者不在のどこ
ろで偽装問題の温床になって
いました。辻教授等は遺伝子
を調べるによりその肉が
純粋種か雑種であるかの検定
法を確立しております。今で
は遺伝子の検査はPCR法の
開発により極めて簡単にでき
ますが、一昔前ではその測定
は複雑で非常に困難だと推測
しております。この方法の開
発により今後偽装表示問題は
解決するものと信じておりま
す。また当該教授の永年に亘
る研究の成果が神戸大学ビー
フの開発に繋がったと思いま
す。おめでとうございます。
一度神戸大学ビーフを食した
いとっております。

神戸大学農学部出身の皆様、
右記の如き会を催してお
りますので友人を誘い合っ
ての出席いただき、団欒ある
はイブニングサイエンスに花
を咲かせてください。一人で
も多くの参加を幹事一同お
待ち申し上げます。
以上

東海支部

支部長 上田 洋(兵C6回)

平成17年度の東海支部総会
は10月22日、名古屋ガーデン
ホテルで開催した。昨年揚げ
た東海支部の重点課題は「神
戸大学卒業生の参加増を図
る」ことであったが、関係者
の努力もあって参加者中3割
が神大卒業生であった。

重点課題が直ぐに実行に移
されるのは、さすがは東海
支部、という思いである。総
会に引き続きの講演は、小
原章裕氏(昭和59年修士卒、
現名城大学農学部助教授)に
よる「生活習慣病を抑制する
食品因子の探索」であったが、
身近な問題だけに大うけで、
懇親会の席でもそれに関連す
る話題が多く、大変有意義な
講演であった。

一方、寂しい出来事として
は、四日市市の林宏昌氏(35
年・肥料)が今年の夏逝去さ
れたことである。同氏には東
海支部の活動にも積極的に参
加して戴いた。謹んでご冥福
をお祈りしたい。

なお、平成17年度の支部役
員は全員留任と決まった。

副支部長 上田 洋(33年 食化)
谷口 正昭(33年 生化)
副支部長 前川 文夫(36年 農製)
前川 文夫(36年 農製)
西浦 隆司(37年 農製)
会計 西浦 隆司(37年 農製)
会計監査 長谷川信弘(43年 農製)

幹事 正源寺正義(36年 食化)
土田 廣信(36年 農製)
神田 豊(44年 食采)
小松 功孝(47年 醸造)
小原 章裕(59年 院食化)



延喜会近況報告

久保 一兵(兵C2回)

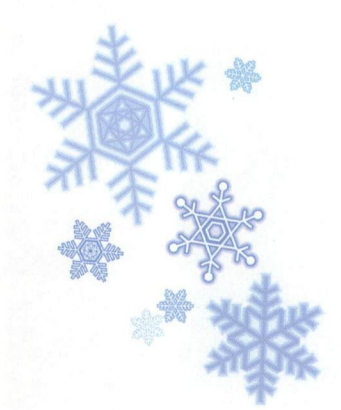
今年度、延喜会においては
現会長久下氏が病氣療養中の
為、会長辞任の意思表示をさ
れたので、その意に従うべく、
現当会役員間で連絡を取り合
っているが、会長の後任、今
後の活動方針を話し合う会合
が決定しておらず、現時点で
は会、全体の活動ではなく
個々の現会員の活動状況等の
報告をもって支部便りと致し
ます。

酒研究会」を初め神戸大学と
の交流を従来に増してより以
上に深めることにより、知識
や技術面での交流が生じ、積
極的な共同体制で産学官連携
により大学の研究と酒造メー
カーの製品開発が結びつき、
より良い新製品の開発が可能
となり、又酒造地帯周辺地域
の活性化策を提案下さること
を期待します。

神戸市灘区から西宮市にか
けての沿岸地域に14世紀から
酒造業が発達し「灘五郷」と
呼ばれ今日にいたる迄、全国
屈指の酒造地帯として成長し
て来ました。酒造メーカーの
組合「灘五郷酒造組合」を初
め「日本酒造組合中央委員会」
委員として下記の諸氏が「国
酒」である日本酒の新商品、
新技術開発と需要振興の為に
取り組んでいます。

取締役 醸造部長
委員会名 技術委員会委員長
氏名 岡本 英輔 兵C14回
勤務先 菊正宗酒造(株)
取締役 常務取締役
委員会名 原料対策委員会
氏名 花本 秀生 兵C16回
勤務先 白鶴酒造(株)
取締役 生産本部長

取締役 醸造部長
委員会名 技術委員会委員長
氏名 岡本 英輔 兵C14回
勤務先 菊正宗酒造(株)
取締役 常務取締役
委員会名 原料対策委員会
氏名 花本 秀生 兵C16回
勤務先 白鶴酒造(株)
取締役 生産本部長



六條会からのお知らせ

頑張る農学部!!

がんばれ同窓生!!

代表理事 中村 直彦 (神戸1回)

(1) 大学ブランド

霜降りの神戸ビーフ、フルーティな香りの泡盛、とれたてのマグロ……。こんな「大学ブランド」の知的な食材が消費者に好評を得ている。

神戸大学農学部付属食資源教育研究センターでは但馬牛の育種改良に取り組み、最高の霜降り肉となる「神戸大学ビーフ」を日本橋三越本店で100グラム当たり、3千円〜5千円で販売している。

また、東大は、戦前にサンブルとして採取していた黒こうじで醸造した泡盛を販売し、近大では、自前の養殖技術を生かし、卵から成魚に育てたマグロをデパートやレストランに販売している。さらに、同志社大では、卒業生が経営するワインメーカーと提携し大学のロゴマーク入りのワインを販売し、早稲田大では、角帽をかぶったくまのキャラクターをプリントしたTシャツや文具などを販売している。

これは、少子化で大学間競争が激化していることや、国立大学の法人化によって、大学のPRにつなげたいといった思惑と、大学が社会貢献していることへの現れの側面ともいえる。

(2) 遺伝子で偽装表示と美味い牛肉を見分ける手法の開発

対応のため、社会の構造改革、行政推進の一手法として、民間活力の導入や市民・事業者の協働と参画が推進されている。

その方法論の一つとして、「PFI」「特区」、そして「指定管理者制度」があげられる。

PFIの考え方は、行政と民間の役割と責任を明確化し、民間が行うことが適切な仕事は民間に委ね、民間の資金、経営能力、技術力を活用して公共施設の建設や管理運営を行うものである。平成11年7月30日に「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」が制定された。

神戸大学農学部の学舎は、「風味」「多汁性」に大きな要因があるといわれている。そのため、これらの要因に影響する遺伝子を特定することができれば、DNAの識別によって牛の遺伝的な改良や牛肉の品質を知るうえでの指標とすることが可能となる。農学部の挑戦はさらに続く。

このように、農学部の若手教官が、新たな切り口で農学に挑戦しており、NHKテレビ、朝日新聞等のマスコミの話題を集めている。

先日、神戸大学クラブ(KUC)の講演会で、「牛肉の安心と安全を見抜く」「神戸大学ビーフはいかに創られてきたか?」と題して、これらの研究者である万年英之助教授、大山憲一助教授から講演していただき、大変好評であった。

(3) 行財政改革への視点

近年の経済の停滞、財政の逼迫の中で、財政支出の削減、行政需要の増大と多様化への

ら、公共団体、公共的団体、公共団体が50%以上を出資した法人、即ち外部団体に限定していたが、法改正により民間事業者にその道が開かれた。そのため、3年間の経過措置の終わる平成18年9月1日までに本制度を導入しなければならぬことになっている。

公共需要の高まりから公共施設を建設したものの、財政事情が悪化していることから、公共施設の管理運営経費が財政を圧迫しているケースがかなりある。

そのため、公共団体が指定管理者制度に求めるものは、施設の適切な管理運営はもろること、住民サービスの向上、効果的かつ効率的な管理運営とコストの削減である。即ち民間の経営のノウハウと卓越した技術、さらには過去のしがらみや人材に拘束されない管理運営が強く求められているのである。

ある試算では、全国40万箇所ある公共施設のうち、8万箇所がこの指定管理者制度の対象施設となり、その運営経費は2兆円に上るといわれる。

この事業の特徴は、事業内容が公共施設の管理運営であるため、施設を建設するといった大きな初期投資は必要でなく、公共施設としてのニーズはある程度保証されているため、決まった指定管理料が確保できるので事業リスクは小さい。

く、独自の知恵と工夫による収益事業の展開によってはじめて施設全体の魅力が増して利益の発生につながるという。そのためには、3年間の経過措置の終わる平成18年9月1日までに本制度を導入しなければならぬことになっている。

(4) 六條会名簿の発行が遅れています

六條会名簿は、4年ごとに発行することになっており、六條会活動の主要事業の柱となっている。現在、名簿の精度を高めるために現住所の追跡調査をしているが、このことが作成経費、名簿価格に跳ね返ってくる。名簿価格は、名簿の精度と販売冊数に反比例する。このたびの価格は、一冊4,000円であるが、購入しやすいく価格に抑えるため、六條会から業者に経費を負担している一方、会員の皆様方に一冊でも多くの購入をお願いするほか、企業広告、名刺広告をお願いしているところである。

しかしながら、ご承知のとおり「個人情報保護に関する法律」が整備されたことにより、名簿発行の予定が大幅に遅れている。

法律は、高度情報通信社会の進展に伴い、個人情報の利用が著しく拡大しているため、個人情報の有用性に配慮しつつ権利利益を保護することを目的としている。さらに、名簿を発行する六條会は、法でいう「個人情報取り扱い事業者」となり、利用目的の特定、利用目的の制限が課せられ、個人情報適切に利用しなければならぬことになっている。

このようなことから、法的な事務処理が必要ですので、年内に名簿発行を予定していたところですが、発行が遅れておりますことをお詫びいたします。

このことは、神戸大学においても、大学が保有する個人情報保護の観点から適切に管理することを目的に検討がなされている。また、学友会(各学部同窓会の全学組織)においては、大学との連携を密にするとともに、学生・卒業生に情報発信する場合において、個人情報保護に適切に取り扱うための方針・具体的な取り組みを明らかにすることにしている。

(5) 同窓生の連携を!

国立大学が法人化され、国立大学法人神戸大学が誕生して、はや1年半が経つ。構造改革の一環として、民間的発想と性格を持つ大学へと意気込んだ。当然のことながら、経営が安定している国立といった従来までの甘い考えから脱却しなければならぬが、予算、運営が、年々厳しくなってきたと聞く。そもそも大学は、人間の幸福、社会への貢献に向けて、大学が取り組むべきことは何かといったことを真剣に考えなければならぬが、学問を追求するといった本質を、単純に金銭で評価することは改めねばならない。

いずれにしろ、これからは、ますます厳しく、難しい時代が長期的に続くものと思われる。神戸大学が、この国際社会において打ち勝ち、同窓生が生き残るためにも、同窓生の連携が不可欠である。今後とも、六條会を核として会員の連携を深めていきましょ


神戸大学には現在、11学部・9研究室からなる10同窓会があります。「神戸大学学友会」は、これらの同窓会の連合体(表参照)です。各同窓会の会員が相集い、各同窓会相互の交流と親睦を図るとともに、神戸大学の公的行事について協議したり参加したりして、母校の発展に寄与しています。年2回学長、副学長をお招きして定期幹事会を開催するほか、必要に応じてその都度、臨時協議会を開いています。

推薦下さい。異色の卒業生を。六條会事務局まで

2005 Vol.3

神戸大学学友会を組織している同窓会

- 一 同窓会名
- 二 学歴(大学卒業)
- 三 学部
- 四 学級
- 五 同窓会
- 六 同窓会
- 七 同窓会
- 八 同窓会
- 九 同窓会
- 十 同窓会
- 十一 同窓会
- 十二 同窓会
- 十三 同窓会
- 十四 同窓会
- 十五 同窓会
- 十六 同窓会
- 十七 同窓会
- 十八 同窓会
- 十九 同窓会
- 二十 同窓会



学友会だより

学友会担当理事 王子 善清 (兵C12回)

神戸大学には現在、11学部・9研究室からなる10同窓会があります。「神戸大学学友会」は、これらの同窓会の連合体(表参照)です。各同窓会の会員が相集い、各同窓会相互の交流と親睦を図るとともに、神戸大学の公的行事について協議したり参加したりして、母校の発展に寄与しています。年2回学長、副学長をお招きして定期幹事会を開催するほか、必要に応じてその都度、臨時協議会を開いています。

一昨年の海事科学部の新設に伴う学友会会則の改正を終えました。歴史も財政的基盤もさまざまな同窓会を一体化するための、具体的運営について、目下、幹事会で協議中です。

なお学友会には、学友会東京支部(東京凌霜会・千代田区丸の内3-1-1帝劇ビルB2階)、学友会大阪支部(大阪凌霜会・北梅田1-3-1大阪駅前第1ビル11階)があり、活発な活動をしています。近くにお越しの節に立ち寄っていただく、母校の現状などの情報がわかりま

神戸大学では年2回、受験生や一般社会人向けの広報誌「Kobe University Style」を発行しています。その中に、「神戸大学学友会から」のセクションがあり、同窓会の活動、トピックス、先輩登場などの欄を設けて当編集委員会の記事内容や写真等の編集業務を担当しています。先輩登場の欄では、推薦頂いた異色の有名人に、大学の広報担当者が対面してインタビューを行い、それを記事にしています。ぜひ、六條会員で適任者をご存知の方は六條会事務局まで一方向下さい。

神戸大学には現在、11学部・9研究室からなる10同窓会があります。「神戸大学学友会」は、これらの同窓会の連合体(表参照)です。各同窓会の会員が相集い、各同窓会相互の交流と親睦を図るとともに、神戸大学の公的行事について協議したり参加したりして、母校の発展に寄与しています。年2回学長、副学長をお招きして定期幹事会を開催するほか、必要に応じてその都度、臨時協議会を開いています。

神戸大学では年2回、受験生や一般社会人向けの広報誌「Kobe University Style」を発行しています。その中に、「神戸大学学友会から」のセクションがあり、同窓会の活動、トピックス、先輩登場などの欄を設けて当編集委員会の記事内容や写真等の編集業務を担当しています。先輩登場の欄では、推薦頂いた異色の有名人に、大学の広報担当者が対面してインタビューを行い、それを記事にしています。ぜひ、六條会員で適任者をご存知の方は六條会事務局まで一方向下さい。

研究室紹介

応用動物学

動物遺伝育種学研究室

教授 向井 文雄 (神Z4回)

今年度、研究室にとって大きな節目の年を迎えました。第一は、長年、遺伝生化学分野で動物の遺伝育種をリードしてきた辻一教授が定年を迎えられたこと、第二は、畜産学から応用動物学への改組により、家畜育種学講座は応用動物遺伝学大講座の遺伝生化学分野と統計遺伝学分野とに手法上の専門性を明確にするために分離してまいりましたが、動物集団の遺伝的多様性の確保、遺伝的評価法や改良手法の学際的发展、安全安心に裏付けられた畜産物の生産などへの要求に対応するために動物ゲノム学・遺伝生化学分野と集団遺伝学・統計遺伝学分野を再び融合させ、動物遺伝育種学研



究室として新たな活動を開始したことであります。研究活動の一端はホームページ (<http://www.kobe-u.ac.jp/animal/>) 上の公表論文リストを眺めていただくこととし、2、3のトピックだけをご紹介します。

統計遺伝学グループではわが固有の肉用牛である黒毛和種(和牛)の育種改良に特化した研究をつけ、これまでに蓄積してきた肉用牛の膨大な血統情報や形質データを解析し、目に見えない遺伝的能力を数値化した育種価と呼ばれる指標を和牛の育種改良に導入した実績があり、今や和牛の選抜や交配に不可欠な指針として全国各地で活用されております。一方、この10年で和牛集団の遺伝的多様性が急速に減少しており、近交の抑制や系統(分集団)の構築などが急務とされており、希少系統の特定や最適選抜交配プログラムの作成などにより、集団の遺伝的多様性の維持確保に取り組んでおります。

遺伝生化学グループでは、家畜品種に特異的なDNA断片を利用して牛肉の偽装表示を見破る手法を確立し、マスメディアにも大きく取り上げられ、食の安心に大きく寄与しうる業績をあげられたと密かに自負しております。さらに、牛肉の美味しさに関わる遺伝子の検索を続け、SCDと呼ばれる遺伝子がウシの脂肪酸組成に影響を与え、不飽和脂肪酸が多く融点が低い風味の良い健康的な脂肪を作り出せるタイプとそうでないタイプが存在することを明らかにし、特許を取得しております。牛だけではなく、鶏では世界で4番目、鶏では世界初となる精密な染色体地図をも完成させており、ゲノム情報を活用した動物の能力評価法の開発に取り組んでおります。

両分野で得られた知見などをもとに取り組んだことも心強い成果は、附属食資源教育研究センターでの但馬牛の一貫生産への寄与であり、独法化とともに大学・学部ブランド力を高めるために、4月より神戸大学ビフの販売を日本橋三越本店で開始できたことであります。

研究室では、理論から応用へを研究教育活動のモットーとして研究教育に取り組んでおりますが、卒業生の皆さん方からの支援がスタッフおよび在校生一同にとってなにより励みであり、ご意見はもちろん、ご要望等をお寄せいただきたくお願いいたします。

【現構成員・教授・向井文雄、助教・二万英之(自然科学)、助手・庄條昌之(自然科学)、教務補佐員・笹崎晋史・本多 健・庄條愛子・吉澤奏子、学部4回生(7名)、大学院生(11名)、研究生(1名)】

食料生産環境工学科バイオシステム工学講座プロセス工学教育研究分野

教授 豊田 淨彦

現在のプロセス工学教育研究分野はかつての農産化学機械学、農産機械学の研究室を継承する研究室です。最近二十年ほどの間、当研究室に所属された先生方には、上田貞夫先生(平成一年定年退官)、竹内龍三先生(平成四年定年退官)、児島初男先生(平成七年定年退官)がいらっしゃいます。竹内先生、児島先生は、退官後も健康で企業教育、或いは音楽活動に活躍されております。また、上田先生は残念ながら数年前に逝去されました。

現在の教員構成は、豊田(昭和五十六年着任)とツエノコヴァ助教(平成八年着任)の2名です。所属学生は、本年度、自然科学研究科博士後期課程3名、前期課程(修士課程)4名、学部生5名、研究生1名の計13名ですが、20名を超える年もあります。

教育研究分野の名称は、時代の動向を表しています。農産化学機械学の時代は、化学の色彩が強く、学生の就職先は化学・食品分野が中心となり、その時代の卒業生の方々も、現在も企業、大学等で責任ある立場で活躍されています。農産機械学の時代は、ポストハーベスト分野の機械学としての色合いが濃く、研究テーマや就職先は農業機械学分野が主になってまいりましたが、バブル経済の時期も重なり、就職先は農業機械メーカーに加え、銀行や商社、証券といった「文系就職」も多くありました。現在の「プロセス



「工学」は、平成5年の改組に伴い附された名前ですが、社会的な需要とそれまでの研究課題を配慮し、将来的に発展の望める食品工学分野を主な対象とし、従来培った工学的な研究教育の手法を活かすことを念頭に決められました。現在、その趣旨は学生にも十分浸透し、研究室を専攻する学生のほとんどが食品分野での活躍を希望し、実際、就職して行きます。このような時代と共に分野名称は変更しましたが、これは、化学、機械学、食品といった個別の領域にとらわれず、何事にもトライするという気風を研究室にもたらしています。

最近の研究課題には、電気インピーダンス(BIS: Bioelectrical Impedance Spectroscopy)によるパン生地膨張過程のモニタリングや納豆製造過程のモニタリング法の開発、電気インピーダンス・トモグラフィ(EIT: Electrical Impedance Tomography)による食品内異物のイメージングや食品内部構造の加工時モニタリング、米のポストハーベストHACCPのためのカビ成長予測モデルの開発、植物工場における衛生管理手法の開発、パルス高電場による殺菌法の開発、微小電極を用いたバクテリアの迅速検出法の開発、米麦の間欠乾燥の最適化、近赤外線分光法による生乳品質の非破壊評価、近赤外線分光法による生乳中のバクテリアの識別、近赤外線分光法を用いた非破壊計測による乳牛の健康または栄養状態の診断、近赤外線分光法によるヨーグルト発酵過程のモニタリング、近赤外線部分分光法による狂牛病プリオンたんぱく質の識別と診断などがあります。食の安全、安心に関わる課題が多いのも現代社会の関心を反映しています。

例年六月に東京ビッグサイトで開催される国際食品工業

展(FOOMA)アカデミックブラザの研究発表には、京都大学の研究室との共同による参加を続けており、昨年と今年、優秀発表としてアカデミックブラザ賞を受賞しました。これは、関係する学生諸君にとって良い励みになっております。また、同工業展は食品企業に就職した卒業生が集う格好の機会ともなっております。先輩・諸兄姉の皆様におかれましては、機会がありましたら、同工業展にお出かけ下さり、気軽に後輩学生諸君にお声をお掛け下さい。

当研究室では、下記のホームページで研究室の近況をお知らせしています。
<http://www2.kobe-u.ac.jp/~toyoda/>

是非、一度ご覧下さり、後輩諸君へメッセージをお送り下さい。勿論、大学の研究室にもお立ち寄り下さい。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

生物機能化学科 食品・栄養化学教室

教授 金沢 和樹

がん、糖尿病、循環器疾患などの生活習慣病を予防できるのは「食」しかないと考えられています。「食」で国民が医療機関にかかる年齢を半年遅くするだけで、国庫負担が10兆円節約できるという試算もあります。食品成分は体に負担をかけることなく体の機能を調節します。しかし、有効な成分は限られており、過剰摂取の問題もあります。日常の少量摂取レベルで、有効成分が体内吸収時に抱合するという代謝を受けて生理活性



を失うからです。私たちの研究戦略は、日常食品の中から、小腸細胞の抱合系を逃れてヒト体内で有効な機能性を示す成分を見出すことです。この戦略でいくつか成功し、世界的に高い評価を得ています。例えば、ブラジル産プロポリスのアルテピリンCという成分は、プレニル基を持っていますので、抱合酵素が接近できません。コンブやワカメなどに多く含まれるフコキサンチンは、側鎖が脱アセチルされるだけで、骨格構造を維持したまま体内に吸収されます。これらは、動物試験で有効に大腸の前がん病変を抑えました。科学的な証拠を得るために大腸がん細胞を用いて作用機構を調べると、いずれもCyt/βの発現を促して、Rbタンパク質のリン酸化を抑えることで、細胞周期にG0/G1期停止を誘導しました。そこで現在、ヒトでの臨床試験を行っています。また、緑茶のエピガロカテキンガレートや野菜類に多く含まれるケルセチンは、抱合を受けてもヒト体内で有効な活性を示します。

しかし、私たちの真の狙いは、有効な食形態を発見することにあります。食品成分を取り出し医薬品のように純品にして摂取すると、多くの場合過剰摂取毒性が現れます。逆に、純品では効果がないが、日常食品のように様々な成分の混合物として摂取すると、僅かずつ効果を示す成分もありません。後者の理由は、様々な成分の混在で小腸細胞の抱合系が拮抗し、抱合を逃れて体内で有効性を示す成分があるからです。これらを考えると、もつとも理想的な機能性食品は日常食品そのものです。例えば野菜類には食物繊維が含まれています。食物繊維は体内吸収系を阻害します。過剰摂取の危険性が下がります。そして様々な成分の混合物です。ならば、野菜をどのような形態で食べれば生活習慣病を予防できるかですが、いくつかの有効な摂取形態を見出し証明いたしました。それらは、本研究室の卒業生たちが勤めている食品企業さんで、次々と製品化されております。また、買ってきた野菜を冷蔵庫に保存している間に、ポリフェノールという有効成分が増えるという冷蔵庫も開発しました。本年6月から販売されています。

このように、食品・栄養化学教室は、卒業生と何時までも一体で、協力して支え合っております。さらにありがたいことは、ご退官された先生方、そして数十年前に卒業された同窓の先輩方が、毎年温かい援助の手を差し延べてくださっていることです。在学生さん方は、先輩のお顔すら知りませんが、毎年開催する夏季集中ゼミで先輩方から頂いたお手紙を紹介しますと、全員が高揚し感激しております。お陰様をもちまして、食品・栄養化学教室は発展を続けております。今後何とぞ温かく見守ってくださいように、心からお願ひ申し上げます。

とめ、竹田真木生教授は大学院自然科学研究科の専任教員という布陣であり、実験室も農学部と自然科学研究科に分かれますが、教員・学生ともに組織の垣根なく往来しています。研究室のメンバーは、3名の教員のほか、3名のポスドク、14名の博士後期課程院生(社会人3名、留学生4名)、8名の博士前期(修士)課程院生(留学生1名)、4名の4回生です(2005年4月現在。10月からは7名の3回生が分属してきます。教員と院生・学生の研究分野は、分子生物学、分類学、遺伝学、天敵昆虫学、保全生態学などと多岐にわたります。毎週月曜日の研究室ゼミでは、それぞれの研究の面白さや大切さを、他分野の学生や教員に伝えなければなりません。「私にも分かるように説明して」という、他流試合の場で学生達は鍛えられています。内藤教授の専門は、植物を食べる蜂の仲間(ハバチ)の研究です。内藤は、ハバチ類の多様性に精通しているばかりでなく、世界で最初に蜂の未受精卵を人為的に発生させ



て染色体を観察することに成功し、その手法をもちいてハバチ類の染色体進化や同所的種分化機構、性決定や性配分の機構の研究を進展させてきました。また、1980、90年代には、神戸大学ベトナム学術登山隊や海外科研費による調査隊をひきいて、中国南西部に何度も遠征し、アジア地域全体の生物多様性を理解する土台となる特異な生物相の解明に務めました。

竹田教授は、ミズーリ大学でPhDを取得した国際派の昆虫生理学者で、国内はもとより海外からも多くの学生達が集まっています。竹田グループでは、ゴキブリやカイコなど、多種におよぶ昆虫類を研究材料として、昆虫の行動や発生現象の生理的な調節機構を探っています。行動や変態のリズム、光周性、中腸に存在するペプチドの機能、細胞の増殖や分化、細胞死、生殖腺の成熟と抑制、変態と休眠と多型、耐寒性、摂食調節などに関与する遺伝子やホルモンの探索し、それらの量的な変動や酵素活性の動態を調べ、それらの物質の局在性を明らかにしています。また、関与する遺伝子をクローニングし、転写活性を調べ、環境情報の入力から遺伝子制御までの調節機構の再構築を進めています。

私(前藤)は、コマユバチ科寄生蜂の系統分類と寄生様式進化の研究を皮切りに、ハバチやシギゾウムシなどの植食昆虫と樹木の相互作用や森林生物多様性に対する人為的インパクトの評価についても研究を行ってきました。現在は、東アジア地域におけるコマユ

バチ科の種多様性や遺伝的変異を研究しており、寄生蜂の単為生殖など生殖様式の進化にも興味があります。また、捕食者を含めた天敵群集の多様性を保全し、その機能を効果的に活用するには、天敵の生息地をどのように管理したら良いのか明らかにするたため、加西市の神戸大学農場や北関東の里山地域、カリマンタンの熱帯雨林再生試験地などに調査地を設定して天敵昆虫類の多様性と生態的機能を多面的に調べています。

岩田や桃井がのこした貴重な蜂類コレクションは現在、兵庫県立人と自然の博物館に保管されています。博物館とは、学芸員を大学院生に迎えたり、学生が主体となる市民セミナーを共催するなどの交流も進めています。我々の研究室だけでは解決できない研究課題に取り組むため、最近では国内外の研究機関や地域企業との共同研究が増えってきました。イギリス、中国、ロシアなどの研究者を招いて一緒に研究する機会もあります。また、毎年夏にJICA(国際協力機構)がアフリカやアジア、ラテン諸国から招く研修生を受け入れて応用昆虫学の講義や実習を行っていただきます。こうした取り組みが学生の利益となるように努めるとともに、今後はホームページ(<http://www.kobe-u.ac.jp/insect/index.html>)をとおして研究室の活動をお伝えしてゆきたいと思っております。

こうした流れのなかで、具体的な研究活動として里山林の炭素固定量の推定を行ってきました。この里山林は京都府南部に位置する常緑広葉樹と落葉広葉樹が混交した森林で、地上部の植物体量は絶乾重でha当たり105トンと推定されました。この量は炭素量にして52トン強に相当します。また年間の地上部炭素固定量は7.9トン、地下部には1.6トンの炭素が固定されると推定されました。毎年CO₂を吸収してこの程度の炭素を固定していることになりました。また低木層、草本層の固定量も全体の10%を占めており、これらの層がこの生態系の炭素の流れに大きな影響を与えていることが推察されました。一方、固定された炭素は再び森林から枯死木の分解や土壌呼吸によって大気中に放出されます。新たに開発した密閉式自動チャンバーを用いて枯死木の消失年数を推定すると、直径10cmの場合、最適含水率下では12年、乾燥状態では49年となりました。また根の呼吸を計測したところ、サイズの小さいもので呼

吸量が多く、根の呼吸の中で細根の寄与率が高いことが確認できました。また土壌呼吸に占める根呼吸の割合は25~65%であることがわかりました。植物体等の分解により森林から大気中に放出される炭素量は3.4~5.1トン/年と推定されました。これらの収支をまとめると、純粋にこの里山林に固定される炭素量はha当たり4.1~6.1トンとなり、すなわち、この里山林はCO₂の吸収源であると判断されました。この結果は多くの里山林がCO₂の吸収源であることを示唆しています。しかし、まだ精度が粗いので他の様々な手法を組み合わせて精度の向上を図る必要があります。

こうした森林による炭素固定量調査は各地で進められていますが、当研究室では、この里山以外に、中国東北部のカラマツ林や国内の針葉樹高齢林でも他の研究機関と協力して調査を進めています。

なお、炭素収支を調べた里山林では、CO₂以外の温室効果ガスの土壌からの放出も測定しました。その結果、メタンについてはこの森林は放出ではなく、吸収分解していることが明らかになりました。また亜酸化窒素については日本の他の地域と同様の1日当たり0.5mg/kgNO₂-Nを放出していることがわかりました。

環境問題を含めて森林への関心が高いことを強く感じます。しかし環境問題として森林を扱うばかりではなく、環境に負荷をかけない貴重な生物資源の供給源として森林をみる必要があることを強調していきたいと考えています。

■生物環境制御学科生物制御学講座 昆虫科学研究分野

助教授 前藤 薫

昆虫科学研究分野の歴史は、狩蜂類の比較行動学を世界に先駆けて切り拓いた岩田久二雄が、当時設立されたばかりの兵庫県立農科大学に教授として着任した1950年にさかのぼります。研究室は、兵庫農科大学が神戸大学に統合されて丹波篠山から現在の六甲台に移転してからも何度かの改組を経て、現在に至っています。この間に、奥谷禎一(ハバチの分類学)、高田巨啓(昆虫生理学)、永富昭

(ハエの分類学)、宮本セツ(ハナバチの生態学)、桃井節也(ヒメバチの分類学)、内藤親彦(ハバチの分類・進化学)、竹田真木生(昆虫生理学)、高須啓志(寄生蜂の行動生態学)、藤原義博(分子生物学)、前藤薫(天敵昆虫学・森林昆虫学)らを教官に迎え、各界に多くの逸材を輩出してきました。現在の昆虫科学研究分野の教員は3名で、内藤親彦教授と私(助教授)が農学部の専任教員をつ

ています。研究室は、1998年に大学院後期課程にできた新しい研究室です。農学部では植物資源学科で森林資源学の教育

当研究室は1998年に大学院後期課程にできた新しい研究室です。農学部では植物資源学科で森林資源学の教育



■植物資源学科 森林資源学

教授 金澤 洋一

研究分野を担当しており、OBの方には馴染みが薄い林学を中心に教育と研究を進めています。林業と関係する林学は食料に直接関係する農業分野とは全く別とも言える分野ですが、農と林に共通する農山村地域を視野に入れた教育と研究ができなかつたかと考えてきました。もともと森林資源の育成を扱ってきた関係から、地域の生物資源量とくに森林バイオマスを中心とした資源の評価と生態系におけるその動態を明らかにして、地域資源の有効利用システムの構築に結び付けられることができれどと思っています。

森林バイオマスの評価は別の意味で現在注目を集めています。ご承知のように、地球温暖化防止に向けて温室効果ガスの削減が求められています。今年2月に発効した京都議定書において、我が国は1990年比で6%のCO₂排出量削減が義務付けられました。ただし、一方で森林が吸収して固定する量を3.9%としてこの6%の削減目標量から差し引いてもよいことも認められました。しかし、京都議定書の発効に当たっても、実際に森林がどの程度の炭素を固定しているのか、定量的に明らかにしなければならぬ点が多々残されています。

こうした流れのなかで、具体的な研究活動として里山林の炭素固定量の推定を行ってきました。この里山林は京都府南部に位置する常緑広葉樹と落葉広葉樹が混交した森林で、地上部の植物体量は絶乾重でha当たり105トンと推定されました。この量は炭素量にして52トン強に相当します。また年間の地上部炭素固定量は7.9トン、地下部には1.6トンの炭素が固定されると推定されました。毎年CO₂を吸収してこの程度の炭素を固定していることになりました。また低木層、草本層の固定量も全体の10%を占めており、これらの層がこの生態系の炭素の流れに大きな影響を与えていることが推察されました。一方、固定された炭素は再び森林から枯死木の分解や土壌呼吸によって大気中に放出されます。新たに開発した密閉式自動チャンバーを用いて枯死木の消失年数を推定すると、直径10cmの場合、最適含水率下では12年、乾燥状態では49年となりました。また根の呼吸を計測したところ、サイズの小さいもので呼

平成16年度 庶務報告

平成17年5月7日(土)に六條会総会が参加者85名で開催されました。その中で、役員(理事・監事)及び代議員の選任が行われました。任期は、役員が平成18年まで、代議員が平成20年までです。

顧問：東 順三(兵C1)
顧問：田中 平義(兵C1)
顧問：西川 欣一(兵A1)
顧問：新家 龍(兵C5)
六條会代議員

役員

- 会長：北浦 義久(兵A6)
副会長：久保 一兵(兵C2)
副会長：能宗 康夫(兵C2)
副会長：杉本 金五(兵Z5)
副会長：内藤 親彦(兵A13)
副会長：吉倉 惇一郎(兵C16)
副会長(代表理事)
... 中村 直彦(神Z1)
... 武 正興(神C3)
... 島中 知子(神A18)
... 竹中 慎治(神C24)
... 相野 公孝(神P12)
... 武 正興(神C3)
... 菅原 通直(神C4)
... 北浦 義久(兵A6)
... 西川 欣一(兵A1)
... 王子 善清(兵C12)
... 能宗 康夫(兵C2)
... 石賀 暢一(神C1)
... 中村 直彦(神Z1)
... 大西 成己(鶴3)
... 昭宏(鶴3)
... 庄一(兵Z12)
... 眞理(神C9)

慶弔記録

以下の方がご逝去なされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)
秋田 謙司(旧教官)
岡本 和子(神C23回)
梶原 佑三(兵A15回)
野草 俊作(旧教官)
平野 徹雄(神Z10回)
丸山 秀敏(鶴4回)
山本 勇雄(鶴2回)
望月 義信(神T8回)
山本 修(旧教官・名誉教授)
小野 一(旧教官・名誉教授)

退官および着任教員

退官および着任された先生方をお知らせします。(敬称略)
退官された教員
庄一(応用動物遺伝学)
王子 善清(生物環境学)
着任された教員
小野 雅之(食料環境経済学)
平成16年度の一事業として
入学者記念品贈呈、会費納入促進、会報発行、各支部活動・学生会・KUC援助、農学部援助

名簿発行の遅延のお詫び

名簿の発行に向け鋭意作業を進めてまいりましたが、本年度から施行されている個人情報保護法の関係について確認作業を行うとともに、学部の変遷等の整理をするなど作業が残っています。つきましては、発行まで今しばらく時間がかかりますので、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

神戸大学農学部六條会
会長 北浦 義久

六條会 平成17年度一般会計予算

Table with 5 columns: 項目, 16年度予算額(円), 17年度予算額(円), 増減(-:減), 備考. Includes sections for 収入の部 and 支出の部.

平成17年度六條会基金予算

Table with 5 columns: 項目, 16年度予算額(円), 17年度予算額(円), 増減(-:減), 備考. Includes sections for 収入の部 and 支出の部.

六條会 平成16年度一般会計決算報告書

Table with 5 columns: 項目, 予算額(円), 決算額(円), 増減(-:減), 備考. Includes sections for 収入の部, 支出の部, and 収入の部, 支出の部.

六條会 平成16年度六條会基金決算報告書

Table with 5 columns: 項目, 予算額(円), 決算額(円), 増減(-:減), 備考. Includes sections for 収入の部, 支出の部, and 収入の部, 支出の部.

会員の皆様からの本会への御連絡をFAX、e-mailで受付けております。住所や連絡先の変更、また本会に対する御要望、御意見など御待ちしております。なお、御連絡の際には、所属学科と卒業年次を併せてお伝え頂くようお願い申し上げます。

FAX 078-881-2752
e-mail rikusou@ans.kobe-u.ac.jp
ホームページ http://home.kobe-u.com/rikusou/

編集後記

六條会会員の皆様、ご活躍のごとくお喜び申し上げます。会報編集にあたり、多くの同窓生の方々にご協力を頂き、今年も何とか無事に会報を発行することができました。海外出張、学会、研究会、講演会の間をぬって原稿を作成していただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

母校神戸大学も国立大学法人となり1年が過ぎました。東京では「神戸大学レビュー」、神戸では「神戸大学いも」が発売され大きな話題を呼びました。さらにお酒までが神戸大学ブランドにと、神戸大学の勢いはますます加速していくようで心強く思います。

さて、表紙は神戸大学百年記念館から見下ろした神戸市内です。この写真を見ていると、震災の神戸も元どおりになり、また神戸大学も近代的になったなと思います。来年再来年と学舎が改築されると聞きました。ますます新しくなる神戸大学に期待をするのと同時に、なぜだか寂しく、複雑な気持ちです。

紙面の内容充実を今後も図っていきたく思います。どんなことでも結構です。エッセイ、コラム、雑文など同窓会事務局の方にお送りください。楽しく、おもしろく、役に立つ紙面を目指して努力していきたいと思っております。また、「こんなことをもって載せてほしい!」、「この企画はおもしろくないからやめろ!」など、ご意見がございましたら、会報担当理事までお申し付けください。

2006年が良い年でありませう、また、皆様のご健康、ご多幸とご活躍を祈念いたします。(会報担当理事一同)